

平成19年度試験検査精度管理実施結果

水質化学科

「理化学試験精度管理」事業は、昭和62年度から継続して実施しており、5保健所及び衛生環境研究所の6機関で実施した。

本事業の目的は、保健所及び衛生環境研究所で実施している試験検査の信頼性を確保するとともに、分析及び検査技術の向上を図ることにある。

平成20年1月中旬に衛生環境研究所が模擬試料(1検体)を調製して各機関に配付、指示した方法により各機関において分析が実施された。

分析項目は、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、フッ素及びその化合物及び塩化物イオンの3項目とした。

各機関から報告のあった分析方法及び分析結果について検討したところ、フッ素及びその化合物について1機関、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素について2機関、塩化物イオンで1機関が精度にやや問題があったが、その他の機関は良好な結果であった。

平成19年度 理化学試験精度管理実施結果

機関名	分析結果		
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	フッ素及びその化合物	塩化物イオン
A	1.40	0.232	15.5
B	1.48	0.238	15.9
C	1.40	0.240	15.1
D	1.32	0.234	16.3
E	1.46	0.259	17.0
F	1.40	0.239	16.0
平均値	1.41	0.240	16.0
標準偏差	0.053	0.0090	0.63
変動係数(%)	3.7	3.7	3.9

単位:mg/l

平成19年度松くい虫防除薬剤空中散布に伴う影響調査について(県行政検査)

理化学試験室

平成19年度における松くい虫防除薬剤空中散布事業は、薬剤としてフェニトロチオン(以下 MEP)を使用し、1回のみ(5月29日～5月30日)実施された。

そこで当所は、環境調査として伊予市及び久万高原町における水源となる河川水、伊予市における大気中の浮遊量と落下量について分析を担当した。

薬剤の捕集法として、大気中の薬剤浮遊量は、固体吸収体としてグリセリンをコーティングしたフロリジルを、落下量はグリセリンをコーティングした風乾ろ紙を使用した。

調査結果は、次のとおりであった。

1 河川水の薬剤濃度

伊予市(3地点)及び久万高原町(3地点)の6地点の

散布前後における河川水12検体を分析した。その結果、伊予市の2地点において散布後の検体から使用薬剤 MEP を検出した。

(検出下限値:0.20 $\mu\text{g}/\text{l}$)

2 大気中の浮遊量

伊予市の1地点において散布前日、当日、2日後、7日後の4回散布薬剤を捕集した7検体について分析し、経時変化について調査した。その結果、散布直後の検体から使用薬剤 MEP を検出した。

(検出下限値:絶対量 0.1 μg)

3 落下量

伊予市の3地点において、散布前日、当日、2日後、7日後の4回、散布薬剤を捕集した12検体について分析し、経時変化について調査した。その結果、散布当日の3検体及び7日後の1検体から使用薬剤 MEP を検出した。

(検出下限値:絶対量 2.0 $\mu\text{g}/\text{m}^2$)